



気づきの力を、子どもたちへ——動物と対話して未来デザイン

動物かんきょう会議プロジェクト 創設者 イアン筒井

私はかつて、本田技術研究所でエアバッグなど「人が死なない自動車技術」の研究開発に携わっていました。研究所では、社員一人ひとりが「A00（エーゼロゼロ）」と呼ばれる自分の研究テーマを持ち、部署を越えた仲間と定期的に“ワイガヤ”（自由な議論）を行いながら、テーマをアップデートしていく文化が根づいています。ここで重要なのは、テーマの探求は自分ひとりで始めること。みんなと相談しながら進めると、エッジが削がれ、平凡でつまらなくなる(!)というのがその理由です。

では、“心が動くテーマ”はどうすれば発見できるのか？ 私は「非日常」がカギだと考えます。例えば、海外を旅して異文化に触れたとき、日本の魅力に改めて気づくように、非日常の「場」や、自分以外になってみる「視点」は、閃きを促すきっかけになります。

こうした“気づき”を、感性がもっとも育つ10歳～12歳

の子どもたちに届けるために「せかい!動物かんきょう会議」メソッドを開発しました。

「自ら気づき、表現する」ことを目的にした教育プログラムです。「解決におけて」は、その先にあるステップです。



(写真) せかい!動物かんきょう会議 in SDGs未来都市UBE での発表風景

この取組は2013年、環境省のESD環境学習モデルプログラムに採択され、2017年には第11回キッズデザイン賞で優秀賞・消費者担当大臣賞を受賞。2018年からはSDGs未来都市・宇部市と連携が始まり、小中学校での「ROOMプログラム」、ときわ動物園での「ZOOプログラム」を展開しています。2025年度で8年目を迎え、認定インストラクターが事務局の中心となり、市民インストラクターとともに、年間のべ約1,500人の子どもたちと向き合う予定です。

2022年には、この取組が宇部市の総合計画に明記され、企業版ふるさと納税の対象にもなっています。2013年からこれまでに、国内外12,000人以上が参加しています。現在は、SDG18「KIDS AS FUTURE GENERATION」を合言葉に、子どもや若者、動物たちが未来を共に考える国際会議「Ask the Animals Conference」を、2027年11月の世界子どもの日に京都で開催する計画も動き出しています。

いま、私たち大人に求められているのは、「サイエンス x アート」「左脳 x 右脳」「人間 x 人間以外」「教える x 教えない」といった、これまでの“左側”だけではなく、“右側”つまり感性や共感の領域を取り入れた「ハイブリット型教育」の実践です。この宇部モデルが、次の未来のスタンダードとなるように、皆さんとともに、さらに深化させていけたら幸いです。



7月のイベント情報

19日(土) 13:30~16:30

第1回「こころを語る会」

生きる力を得るためにこころについて語り合おう

場所: 宇部フロンティア大学B棟1階臨床心理実習室

申込はこちらから→

申込× 7月15日(参加費無料)



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX: 0836-39-8110 E-mail: ubekuru@gmail.com

開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土日・祝日、年末年始(12月29日~1月3日)



HomePage



facebook



x



NPO法人うべ環境コミュニティー



ヤーコブ・フォン・エクスキュル (1864 エストニア生まれ) は、Umwelt (ウンヴェルト) という概念を確立した動物学者である。日高敏隆氏によって「環世界」と訳されたウンヴェルトとは、生き物それぞれが、その中で生きていと感じている環境の捉え方のことである。例えばその中の一生物種である「ヒト」の場合はどうだろう。自然環境とか地球環境などといったものを、私たちは普段から感じとり、常識として理解していると思っている。しかし、それは「人間」という生き物が考えている主観的な認識に過ぎないのだという。実は、この世界には、人間が当たり前だと信じている、いわゆる山や川や海と、そこに棲む様々な生き物からなる「自然環境」などというものは存在しない。それは人間だけが知っている「環世界」に過ぎないのだ、というのである。

この「環世界」という考え方を認めることで、同じ空間と時間の中で共生している生き物たちから見た世界を直感的に「認識」することができる。

その上で人間なりの「知識」を駆使することで、あるべき社会の姿を思い描き、その実現に近づくことができるかもしれない。

動物目線の世界認識と教育によるサステナブルな社会の実現



イラスト: 大濱進治+Lavinia Elysia

